学力フォローアップ校

小学校名	学級数	児童数
北広島町立壬生小学校	９	162名

（R01.11.1現在で記入）

１　指導上の課題

昨年度の学力調査及び質問紙調査から，学力や学習意欲について，次のような課題が明らかになった。

〇学力調査の結果から

・全国学力・学習状況調査（算数A）の正答率40％未満の児童の割合が19.2％で，県比135と多いことが分かった。

・ＣＲＴ（算数）では，「数量関係」で全国平均を下回る学年が多く，全校的な課題があることが分かった。また，低学年の「図形」でも，つまずきが多いことが分かった。

・問題文の問いや指示を読み取る部分でのつまずきや，記述式での無答が多いことなどから，読む力や書く力の課題も大きいことが分かった。

〇学習に関する質問紙調査（全学年実施）の結果から

・全体では，「算数が好き」55％「自分の考えを積極的に伝えている」51％など，学習への意欲や参加感が著しく低いことが分かった。

・学力に大きな課題のある抽出児童８名が「算数が好き」と感じた度合いも，１学期の67点から２学期は変化なかったが，３学期は44点へと低下していた。

・ＣＲＴの関心・意欲・態度に関する設問でも，各学年各教科の全国比の平均が93と低かった。

２　研究の概要

（１）研究テーマ及び研究のねらい

〇研究テーマ

仲間と協力して，課題解決に意欲的に取り組む児童の育成
～「課題発見」「対話」「ふりかえり」の
質を高めることを通して～

〇研究のねらい

学校教育目標「～自分が好き！ 仲間が大切！ ふるさとが自慢～ 目標をめざし 仲間と協力し 努力を楽しむ子の育成」や本事業の趣旨，学校や児童の実態等を踏まえ，上のように研究主題を設定した。

全校の取組については，課題の大きい算数科を中心に，学力を高める視点に加え，学習意欲を高める視点からも，授業改善を図っていく必要があると考えた。既習や経験とのズレによる「うまくいかなさ」を実感させ，「分からない」や「間違い」が安心して言える導入を行うことで，仲間と必然的に対話しながら，課題解決に意欲的に取り組む児童の姿を目指していく。また，様々な学習過程において，分析的に読む場面や考えて書く場面を意図的に仕組み，児童一人一人の読む力や書く力を伸ばしていくこととした。

個に応じた指導の充実については，個のつまずきとその要因を踏まえた手立てについての協議を，より日常的で多面的なものに改善し，より効果的で，学びの自立につながるような手立てを追究していくこととした。

「既有の知識や生活経験がゆさぶられ，児童自身の中に課題意識が生まれるような課題発見の場面」，「手がかりとなる既習事項や仲間との対話に，自分から手を伸ばしていくような課題解決の場面」，「１時間の自分をメタ認知し，実感や納得，汎用性につながるようなふりかえりの場面」のある単元や授業をデザインすることができれば，考える楽しさとともに仲間や自分のよさを感じられ，学習への意欲が高まるだろうと考え，研究のテーマとすることにした。

（２）取組について

【各学年の取組】

全校で取り組んだ内容

①課題の発見，対話，振り返りの過程を充実させ，仲間と考えることが楽しい単元や授業をデザインする。

②分析的に読む，考えて書くなど，思考・判断・表現を伴う学習活動を意図的に仕組んでいく。

低学年の重点

①児童にとって楽しく分かる授業となるように，視覚的な提示や具体物操作，動作化など，低学年の発達段階に応じた学習活動を仕組む。

②黙読や思考の基礎となる読む力を育成するため，様々な教科の授業に音読する場面を仕組む。

中学年の重点

①既習事項や生活経験とのずれに気付かせ，児童が解決の必要感を感じられるような課題発見の場面を仕組む。

②問題文を読み，たずねられていることや分かっていることを抜き出すなど，分析的に読む場面を仕組む。

高学年の重点

①既にまとまった考えを伝えるだけの対話ではなく，友達と練り合いながら考えを深めたりまとめたりできるような対話の場面を仕組む。

②図や言葉，式などをつなげてかいたり表現したりするなど，考えて書く場面を毎時間設定する。

【個に応じた指導の充実】

①学習意欲の喚起や，課題解決への動機付けにつながるように，単元の構成や課題の設定を工夫・改善する。

②課題の把握や解決の見通しの際に，既習事項を使えるように，授業における既習の確かめ方や掲示の仕方を工夫・改善する。

③実感を伴った気付きや理解を促すために，ワークシートや教材・教具を工夫し，具体物操作や比較などの数学的活動を充実させる。

④個別の学力課題を克服し，学びに向かう力を伸ばすために，学力補充体制を確立し，指導と評価の仕方を工夫・改善する。

３　実践事例

【各学年の取組】

（１）児童にとって楽しく，よく分かる学習活動の工夫

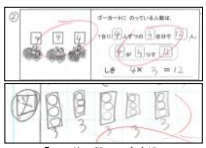
単元：第２学年 算数科「かけ算（1）」「かけ算（2）」
内容：乗法の意味と性質の理解，九九の構成と計算，活用

①「一つ分の数」に着目させるための視覚的な工夫

・問題場面の絵を提示する際には，一つ分から示す。

・ワークシートやノートの絵や図に，一つ分の数を書き込ませる。

・間違いを含む絵や図を提示し，問題場面と合っているかを検討させ，「一つ分の数」と「いくつ分の数」を正しくとらえられるようにする。

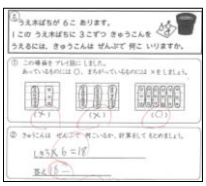


「一つ分の数」の書き込み

②九九の唱えと式，場面イメージのマッチングを図る工夫

・ホワイトボードペンで繰り返し書ける「九九書くシート」を持たせ，九九を唱えながら式を書いて練習させる。
（唱え⇔式）

・手元でアレイ図を作りながら，「４が１つで四一が四，４が２つで四二が８，…」と唱えさせる。
（場面⇔唱え）



問題場面に合う図を選ぶ学習活動を仕組む。

「アレイ図作り」に取組む児童

・各自で簡単なゴールゲームをさせ，得点計算の式を「九九書くシート」に書き，九九を唱えて答えを求めさせる。
（場面⇔式⇔唱え）

九九を使って得点計算をするゲーム

（２）思考の基礎となる読む力の育成

音読の具体的な活動や指導のあり方を研究するとともに，音読の教材や校内環境を整備することで，音読に全校で継続して取り組めるようにし，児童の言語運用能力の基礎を養い，読解力や思考力の向上を図った。

音読のポイントについて学ぶ職員研修

①サテライト研修による職員研修の実施

テーマ　「読む・書く，思考・判断・表現の徹底
～音読指導について～」
実施日　令和元年７月26日（金）
講師　広島県西部教育事務所芸北支所　山本 康美 指導主事
内容・講義　「音読のよさ」「姿勢・口形・発声のポイント」
・演習　課題別のグループ練習，全体発表
・まとめ　振り返り

②３分間音読の取組

授業や朝の会，帰りの会などに，毎日３分間の音読タイムを設け，音読の習慣化を図った。指導者は，音読の３つのポイント「姿勢」「口形」「発声」について見取り，指導と評価を行った。３分間音読の課題は，教科書や暗唱課題などの中から，児童の実態に合わせて選び，取り組ませた。

国語科授業の初め３分間で，
教科書を音読する１年生

③暗唱課題「青本」の取組

児童に暗唱させたい名文を，様々な文学作品から30作品リストアップし，読みやすくファイルにまとめたものを「青本」と名付け，児童一人一人に配付した。学校や家庭で暗唱の練習を行い，覚えた課題から，休憩時間に職員室での検定を受けることができるようにした。検定の手順や指導と評価のあり方について，全職員で共通認識を図るとともに，繰り返し見直しを図りながら，より効果的で持続可能な取組になるよう，改善していった。

休憩時間に職員室で暗唱検定を受ける児童

④校内掲示の充実

・暗唱チャレンジ 合格掲示
職員室前の掲示板に，「青本」暗唱チャレンジの合格数ごとに，児童の名札を掲示できるようにした。合格するたびに，合格児童の名札を動かしていくことで，暗唱チャレンジへの日常的な意識付けや意欲の向上を図った。

暗唱チャレンジ　合格掲示

・暗唱課題 名文掲示
職員室前廊下の上方壁面に，新たな掲示スペースを設け，児童がチャレンジしている暗唱課題のうちの６作品を掲示した。顔を上げ，友達と一緒にいつでも練習できる場を作ることで，暗唱チャレンジへの意識付けや日常的に名文に触れる機会となるようにした。

名文掲示（上）を見上げて
練習する児童（下）

【個に応じた指導の充実】

＜別紙様式２「学力に大きな課題がある児童への指導について（効果のあった実践事例）」参照＞

４　研究の成果と課題等

（１）成果

①学力について

・全国学力・学習状況調査（算数）の正答率40％未満の児童の割合は11.8％で，県平均との差において，前年度比5.6ポイント減少した。
・全国学力・学習状況調査の記述式の問題の正答率は，国語科で6.2ポイント，算数科で0.5ポイント，全国を上回った。
・ＣＲＴでは，全国比の平均が，国語科では昨年度より２ポイント向上し，102.5となり，算数科では7.2ポイント向上し，105.7となった。
・算数科単元末テストでは，下の表のように，全国比の全校平均が前年度より向上し，算数科の学力定着に改善が見られた。

②学習意欲について

・ＣＲＴの関心・意欲・態度に関する設問では，各学年各教科の全国比の平均が，昨年度より16ポイント向上し，109となった。
・児童質問紙では，下の表のように，肯定度合が前年度より向上し，算数科を中心とする学習意欲に改善が見られた。特に「算数の授業は，楽しいです。」の肯定度合は，昨年度の59.0から，15.1ポイント増加し，74.1となった。

評価指標	学期	H30	R01	前年度比
算数科単元末テスト全国比の全校平均	1	100.5	102.9	+2.4
	2	97.7	104.3	+6.6
	3	102.0	102.5	+0.5
学習意欲に関する児童質問紙肯定度合の全校平均	1	74.8	77.3	+2.5
	2	70.2	79.3	+9.1
	3	66.5	82.9	+9.3

（※肯定度合：よく=100　大体=66.6　あまり=33.3　全く=0　として換算した値）

（２）課題

①学力について

・全国学力・学習状況調査（国語）の正答率40％未満の児童の割合が20.6％で，県平均との差において，前年度比5.5ポイント増加した。
・全国学力・学習状況調査の選択式の問題の正答率は，国語科で7.8ポイント，算数科で5.4ポイント，全国を下回った。

②学習意欲について

・児童質問紙の肯定度合が最も低かった項目は「人と意見がちがうときでも，自分の考えを言うことができます。」の73.1だった。前年度の62.2より大きく向上しているものの，自分の考えに自信を持って積極的に伝えることは，十分できていないことが分かった。

（３）今後の改善方策等

・今年度は，広島県立教育センター 特別支援教育・教育相談部の研究事業「通常の学級における学習のつまずきのある児童への指導・支援の工夫 ～『計算する・推論する』ことに対する実態把握を通して～」の研究協力校として，第２学年の児童の実態についてより専門的なアセスメントを行い，「３ 実践事例」の授業改善につなげることができた。学びの基盤となる数感覚・数概念の実態とともに，認知や処理の傾向をつかむことの有用性を実感することができた。今後は，専門機関と連携しながら，今年度中に全学年の児童についてアセスメントを行い，合理的な指導・支援のあり方について研究を深め，授業改善を図っていく。
・学びの基盤となる「ことば」や「数・形・量」などに関わる豊かな感覚を育むための，持続可能で有効な活動や学習材，方法について研究し，実践していく。
・授業のユニバーサルデザインを通して，全員が見通しを持ち，教科の見方・考え方を身に付けることができるように，参加と理解がしやすい授業づくりに取り組んでいく。